

トラック・バス常用ブレーキ装置強度ダイナモメータ試験方法

Truck and bus—Service brake structural integrity dynamometer test procedure

1. 適用範囲 この規格は、トラック・バスの正常に作動する常用ブレーキのダイナモメータによる強度試験方法について規定する。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、発効年を付記してあるものは、記載の年の版だけがこの規格の規定を構成するものであって、その後の改正版・追補には適用しない。

JIS D 0210:1995 自動車ブレーキ試験方法通則

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS D 0210 の 2. (用語の定義) による。

4. 試験の種類 試験の種類は、次による。

a) 破壊強度試験 ブレーキの永久変形の過程を追いつつ、降伏状態又は破壊を調べる試験。ここで、破壊とは、ブレーキの機能を損なう変形、き裂などの異常が生じた状態をいう。

b) 耐久強度試験 普通より過酷な条件下での耐久性を調べる試験。

備考 a), b) の試験とも、それぞれ前進方向、後進方向の試験がある。

5. 試験条件

5.1 車両区分 試験用車両は、乗車定員及び車両総質量によって区分する。

なお、区分名称は次のとおりとし、参考として () 内にトラック及びバスの制動装置の技術基準での名称を示す。

区分	M2 (第1種バス)	乗車定員が 10 人以上で、車両総質量が 5 t 以下のバス
区分	M3 (第2種バス)	乗車定員が 10 人以上で、車両総質量が 5 t を超えるバス
区分	N1 (第1種トラック)	車両総質量が 3.5 t 以下のトラック
区分	N2 (第2種トラック)	車両総質量が 3.5 t を超え、12 t 以下のトラック
区分	N3 (第3種トラック)	車両総質量が 12 t を超えるトラック

5.2 ブレーキ装置各部の状態 試験時のブレーキ装置各部の状態は、JIS D 0210 の 4.3 (ブレーキ装置各部の状態) の規定による。

5.3 イナーシャ イナーシャの計算式及び設定は、JIS D 0210 の 7. (計算式) の規定による。

なお、使用した計算式は、記録用紙 (強度試験総括表) に記入する (付表 2 参照)。

5.4 制動トルク 制動トルクの計算式は、JIS D 0210 の 7. (計算式) の規定による。

なお、使用した計算式は、記録用紙 (強度試験総括表) に記入する。

5.5 温度の測定方法 ブレーキ温度の測定は、固定側を原則とし、JIS D 0210 の 6. (温度測定方法) の規定による。

備考 原則に従わないときは、その旨記録する。

5.6 冷却風 風速は原則として 11 m/s とし、ブレーキの投影面に一様にかつ連続的に当たるように調整する。

なお、風の温度は常温とする。

備考 原則に従わないときは、その旨記録する。